

開発途上国のHIV治療を支える取り組み

NCGM 国際医療協力局

かつて「死の病」だと世界中の人々に恐怖と不安を与えたエイズ。原因であるHIVウイルスや発症の仕組みなどの研究が進み、エイズはいま、正しい知識があれば予防でき、ウイルスを抑え込む薬による治療が可能な病気になりました。しかし、HIV感染者の90%は開発途上国で暮らしています。NCGM 国際医療協力局は、小さな農村に暮らす一人ひとりに必要な医療を届けるために、開発途上国に専門家を派遣してHIV/エイズの予防と治療の仕組みづくりに取り組んできました。

1

2005 - 2008 ジンバブエ共和国

マシング州 HIV 母子感染予防プロジェクト



村で医療サービスの利用状況を調査



医療施設の新生児室

ジンバブエの母子を HIV 感染から守るプロジェクトを実施しました。妊娠初期に感染が確認され適切な対策をとると赤ちゃんへの感染率は1%以下になり、ほとんどの赤ちゃんが健康に生まれます。母子感染の予防に取り組む医療施設を増やし、夫婦での理解と参加を促進しました。検査を受け、女性が陰性、男性が陽性であれば妊娠中や授乳中の母子への感染リスクに適切な対策ができ、逆に女性が陽性で男性が陰性なら男性への感染予防を行うことができます。そして赤ちゃんを含めた家族全体へのサポートが可能になります。

2

2009 - 2015 ザンビア共和国

HIV/エイズケア管理展開プロジェクト

ザンビア政府とともに HIV 患者を診療できる施設が限られる農村部に抗 HIV 薬 (ART) による治療を届けるプロジェクトを行いました。ART は毎日飲むことで効果が得られるため治療の継続が重要ですが、長距離通院の負担がその障壁となっていました。プロジェクトでは、都市部の保健局や医療スタッフがチームを組んで地方のヘルスセンターを巡回し、ART を提供する“モバイル ART サービス”を展開しました。



病院の方から村に治療に来てくれるモバイル ART サービス。村の保健センターに医師がいなくても、巡回する医師と村の医療スタッフとボランティアが協力して患者さんの治療をします。



ヘルスセンターに届ける荷物を積む



薬を袋に分けるボランティア

3

2005 - 2015 ミャンマー連邦共和国

主要感染症対策プロジェクト



献血会場



血液の保存状況を確認

HIV/エイズ、結核、マラリアなど主要な感染症対策プロジェクトにおいて、輸血を通じた HIV 感染の予防 (安全血液) に取り組みました。感染予防には、安全な輸血用血液の提供と、献血によって集まった血液に対する精度の高い検査が重要です。献血者登録システムの導入、検査の手順書やガイドラインの作成、血液の検査管理体制の強化を支援しました。また、自発的な献血者を増やす啓発活動を行いました。